

## 限界集落の暮らしの記録 福井市芦見地区の事例

松原 かおり<sup>\*1</sup>, 池田 岳史<sup>\*2</sup>

### Record of life in the marginal settlement (Case study of Ashimi district in Fukui city)

Kaori MATSUBARA<sup>\*1</sup> and Takeshi IKEDA<sup>\*2</sup>

<sup>\*1</sup> Graduate School of Engineering, Department of Social System Engineering, Design Course

<sup>\*2</sup> Department of Design, Faculty of Environment and Information Sciences

In the master's program, the writer has been filming for two years with research theme of "recording activities aimed at revitalizing local resources". At "Ashizumigama", a charcoal kilns in Ashimi district, Fukui City, as a research theme for "recording activities aimed at revitalizing local resources". Writer surveyed the residents of the Ashimi district of Fukui City in early April 2021 to the three residents' associations of Yoshiyama-cho, Shimoyoshiyama-cho, and Kagotani-cho in the Ashimi area in order to understand the current state of changes in the actual settlement for conducted for study. From this survey, compared to the villages of Fukui Prefecture as a whole, activities in the marginal villages of the Ashimi district of Fukui City will continue, and in order to continue to be the villages live in. Explore the possibility of accepting migrants in the future by considering the current situation and activities of the marginal settlements of Fukui City in response to the growing needs for rural migration due to the corona disaster.

**Key Words** : Marginal settlement, Ashimi district, Fukui city

#### 1. 研究背景

令和元(2019)年の感染者報告から世界的に蔓延している新型コロナウイルス感染症「COVID-19」は、人々の生活様式にも大きな変革をもたらしている。日本国内においても、令和3(2021)年4月現在もCOVID-19の第4波と言われる状況にあり、都市部を中心に緊急事態宣言、まん延防止等重点措置が出されている。

このような状況の中、政府によるリモートワークの要請などにより、これまで通勤していた人々はワーケーション<sup>(1)</sup>と呼ばれるリゾート地や地方部など、普段の職場とは異なる場所で働くという新しい働き方も模索されつつある。

また内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局資料、「地方創生テレワーク推進に向けた検討会議“「転職なき移住」による地方への人と知の流れの創出”<sup>(2)</sup>」でも提言されているように、COVID-19が蔓延するコロナ禍の現状において、これまで進まなかった都市部への人口集中の是正、地方移住の促進といった面においては、可能性を見いだすことができる状況である。

---

\*原稿受付 2021年5月6日

\*1 大学院 工学研究科 社会システム学専攻 デザイン学コース

\*2 環境情報学部 デザイン学科

E-mail: info@noahsark-design.com

## 2. 研究目的

本研究を含む一連の研究<sup>(3)(4)</sup>では、限界集落の現状を捉え、地域資源の発掘と映像化による情報発信を目的に、「地域資源を活かした暮らしの記録」を研究テーマとして、福井市の中心市街地より約 20 分圏内にある福井市吉山町の芦見地区にある炭焼き小屋「芦炭窯」(Fig. 1)を 3 年間に渡って継続的に取材してきた。

限界集落の現状を捉える調査として、福井県は、県内の限界集落の活性化のために必要な施策の企画立案に用いるため、平成 29 年度(2017)に県内全集落を対象とした集落活動の状況、将来の展望などに関する「平成 29 年度福井県集落实態調査<sup>(5)</sup>」を行っているが、本研究では、新たに研究対象とする芦見地区にある吉山町、下吉山町、箆谷町の三自治会において、令和 3(2021)年 4 月上旬にアンケート調査を実施した。この調査から、昨今のコロナ禍で高まりつつある地方移住のニーズに合わせ、後継者問題を抱えた芦見地区への移住促進の可能性のあるのではないかと仮説を立てた。そこでこれまで取材を続けてきた芦見地区においての活動が継続され、地域住民にとって集落の問題と今後住み続けたい集落であるために何が必要かを検証し、必要な支援策を探ることを目的とする。

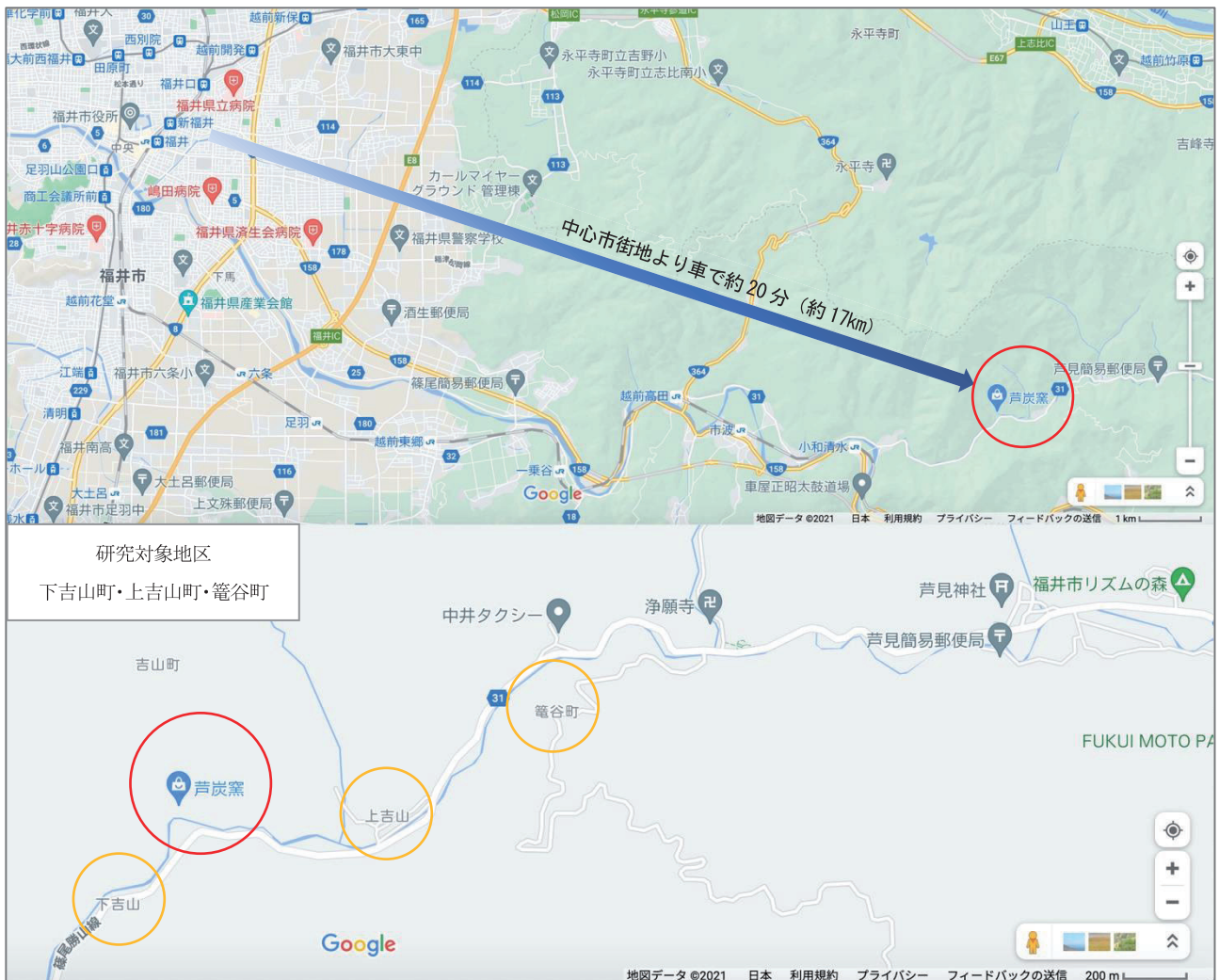


Fig. 1 研究対象エリアと福井市吉山町（芦見地区）「芦炭窯」所在地

## 3. 過疎地域における集落の現状

総務省地域力創造グループ過疎対策室は、令和 2(2020)年 3 月に「過疎地域における集落の現状に関する現状把握調査最終報告書」<sup>(6)</sup>を公表した。報告書の概要版は過疎地域における集落の現状に関する現状把握調査最終報告書のうち、過疎地域自立促進特別法により過疎地域に指定された地域のみを抜粋して集計したものと記されているため、本研究では、その概要版を基に調査研究を進めることとした。

国の過疎地域における集落の現状に関する現状把握調査最終報告書の概要版データによれば、全国の過疎集落数は6万3,237集落、集落人口は、1,035万7,584人、過疎地域の1集落当たりの平均人口は約164人である。福井県のある北陸圏においては、2,070集落、集落人口は298,916人、過疎地域の1集落当たりの平均人口は144.4人である。

研究対象エリアの福井県における集落については、平成30(2018)年に福井県総務部市町振興課による「平成29年度福井県集落実態調査報告書」より、まず本県の人口推移を福井県実態調査報告書に記述されているデータに加え、福井県ホームページより「福井県の推計人口」<sup>(7)</sup>と比較した。福井県の人口は平成29年度(2017)と令和3年度(2021)と比較して20,652人減少したが、世帯数は9,080世帯増えており、人口減少化社会において世帯数が増えているのは、単身・夫婦のみ世帯の増加と世帯の小規模化が進んでいると国土交通省の白書<sup>(8)</sup>より示唆されているように、福井県でも同様な推計結果となっている。集落数は先の総務省の集計方法とは異なるが、平成29年度(2017)は2,905集落となっており、高齢化集落の数は190集落である。また令和3年度(2021)には、高齢化集落の数は238とさらに増加している。

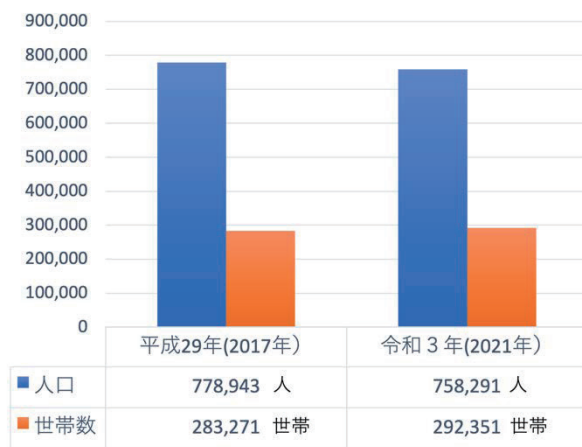


Fig. 2 福井県の人口推移

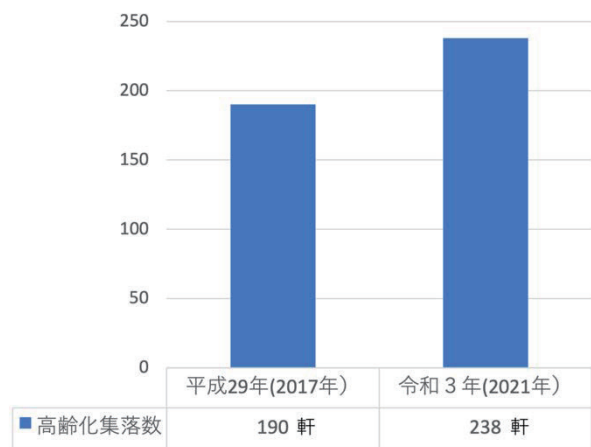


Fig. 3 福井県の高齢化集落数

全国のデータと福井県のデータを踏まえ、福井市集落支援員芦見地区担当の故・大森紀之氏による『「集落点検」についての纏め<sup>(9)</sup>』平成24年度(2012)のデータを参考に、芦炭窯近隣の3集落の集落現状把握調査を実施した。

#### 4. 芦見地区集落の現状に関するアンケート調査実施

福井市集落支援員は平成29年現在、市内の中山間地域にある10世帯未満の27集落のうち殿下地区の別畑町、二ツ屋町、水谷町、美山地区の赤谷町の4集落に配置されているが美山地区と日新地区の2自治会が解散した。ともに少数の高齢世帯で構成し、地区などから割り振られる役職を担いきれなくなった事が要因とされる<sup>(10)</sup>。この資料において当該地区は、「美山地区」と記載されていたため、改めて「美山地区」、「芦見地区」について調べたところ、福井大学教育地域科学部の服部 勇氏の先行研究<sup>(11)</sup>によると、「福井県旧美山町は、2006年の市町村合併により福井市に併合された。旧美山町に含まれていた芦見地区には7つの集落があった。美山という名前や芦見という名前は行政上の名称ではなく、現在では集落がそのまま町名となっている。例えば、旧美山町芦見地区西中は、福井市西中町となった。本論では、美山町、芦見地区、それに旧集落名を使用する。福井市の旧美山町が芦見地区と言われ、美山地区という言い方は旧美山町の名残からだと考えられる。」と述べられている。そこで本稿では、集落の名称として旧美山町の芦見地区について「芦見地区」と表記することとする。

前述の『「集落点検」についての纏め』によると、平成24(2012)年の芦見地区全体の世帯数は63世帯で、集落人口は175人であった。芦見地区は、皿谷町、所谷町、西中町町、美山大谷町、竈谷町、上吉山町、下吉山町の7つの町で構成されており、芦見地区の高齢者65才以上の夫婦や一人暮らしの世帯の割合(Table 1)は約54%に及ぶ。

Table 1 芦見地区の高齢者65才以上の夫婦や一人暮らしの世帯の割合(平成 24 年度)

世帯／町名	皿谷町	所谷町	西中町	美山大谷	箆谷町	上吉山町	下吉山町	計	割合	高齢者世帯
一人暮らし(老人)	8	3	2	1		5		19	30.2%	54.0%
夫婦(65 歳以上)	1	2	3	2	3	2	2	15	23.8%	
一人暮らし(若人)		1			1			2	3.2%	
夫婦(65 歳以下)			1					1	1.6%	
同居(2 世帯以上)		2	6	10	2	4	2	26	41.3%	
計	9	8	12	13	6	11	4	63	100.0%	

芦見地区における本研究独自のアンケート調査は、福井県集落实態調査報告書より、「集落の現状に関するアンケート調査」の際に使用されたアンケートの内容に沿って、芦見地区の芦炭窯周辺にある箆谷町、上吉山町、下吉山町の 3 集落で行った(Fig. 3).



Fig. 3 アンケート調査対象エリア(下吉山町, 上吉山町, 箆谷町)

この内、アンケート調査に応じた世帯は、箆谷町 2 世帯、吉山町 9 世帯、下吉山町 1 世帯の合計 12 世帯で、アンケート回収は箆谷町 2 世帯、吉山町 8 世帯、下吉山町 1 世帯の合計 11 世帯の有効回答数と有効回収率は約 91.7%であった(Table 2).

Table 2 芦見地区 3 自治体(下吉山町, 上吉山町, 箆谷町)でのアンケート有効回答数

	下吉山自治会	上吉山自治会	箆谷自治会	合計
アンケート依頼数	2	8	2	12
有効回答数	2	7	2	11
有効回収率				91.67%

## 5. 芦炭窯周辺集落の現状調査結果と検証

芦見地区にある 3 集落の現状に関するアンケート調査結果は、独自に行った「芦炭窯周辺集落の現場調査結果資料」と、福井県総務部市町振興課が平成 30 年度(2018)3 月に発表したアンケート調査の内容と結果を合わせて集計し考察することとした。「芦炭窯周辺集落の現場調査結果資料」を作成するにあたり、問 1 から問 23 まで合



計 23 問のアンケート内容 (Table 3) を、先述した簗谷町 2 世帯、吉山町 9 世帯、下吉山町 1 世帯の合計 12 世帯に対し行った。

Table 3 芦炭窯周辺集落の現地調査アンケート内容

問 1 集落から利用できる公共交通機関はありますか。	問 2 問 1 で公共交通機関が「1.ある」と答えられた方について、公共交通機関の便利はいいですか。
問 3 集落には、集会所(コミュニティセンターや ふれあい会館など)がありますか。	問 4 集落には、空き家や廃校、空き店舗など、現在利用されていない建物がありますか。
問 5 集落には、お年寄り 1 人だけで住んでいる世帯(独居老人世帯)はありますか。	問 6 問 5 で、「1.ある」と答えられた方について、お年寄り 1 人だけで住んでいる世帯の安否の確認は、おおよそ毎日できていますか。
問 7 集落内のお年寄りの楽しみや生きがいは何ですか。	問 8 集落内のお年寄りは、普通どれくらいの頻度で、集落の外へ出かけますか。
問 9 集落内のお年寄りが集落外へ出かける場合、主な目的として何が考えられますか。	問 10 集落内のお年寄りが集落外へ出かける場合、主にどのような移動手段を使うと考えられますか。
問 11 集落内のお年寄りだけの世帯では、家屋 の雪下ろしや除雪を主にどのように行っていますか。	問 12 集落の田畑で耕作放棄などにより荒廃が進んでいるところがありますか。
問 13 問 12 で「1.ある」と答えられた方について、農作業を請負ってくれる人がいた場合、農地を復活させるため、農作業を外部に委託することは可能であると考えられますか。	問 14 都市部の住民が集落に数日間宿泊し、ボランティアで農作業や清掃作業などを手伝ったりすることについて、どう思いますか。
問 15 問 14 で「2.歓迎しない」と答えられた方について、その理由はなんですか。	問 16 農作物への鳥獣被害はありますか。
問 17 集落内には自主防災組織がありますか。	問 18 集落の清掃作業や自主防災組織の運営などの集落活動について、人手不足などの理由から、近隣集落と共同で実施したいと思いませんか。
問 19 集落の行事等を中心となって進めたり、集落住民を引っ張っていくリーダー的な立場の人はいますか。	問 20 集落全体の寄り合い(話し合い)を開いていますか。
問 21 集落の活性化のためには、何が必要だと考えますか。	問 22 集落で困っていることや不安に思うことについて、該当する項目にすべて○をご記入ください。
問 23 問 22 うち、特に困っているものについて、1 つ◎をしてください。	

まず、問 1(Fig. 4)の「集落から利用できる公共交通機関はありますか」の設問は、芦見 3 集落では「無い」の回答が 1 名あったが、芦見地区においては、皿谷、所谷、リズムの森、西中、簗谷、上吉山、下吉山、瀬ヶ口、小和清水東、小和清水、ごっつおさん亭、美山公民館、美山総合支所、美山中学校、美山保育園、美山駅、美山啓明小学校、相谷の全 19 停留所を繋ぐ美山地域バス芦見ルートとして運行されている。

福井県の中山間地域では約 30%「無い」と答えており、中山間地域限界集落がある他のエリアにおいては公共交通機関がなく、芦見 3 集落に比べ不便であることがうかがえる。

問 1 の「集落から利用できる交通機関」について、「ある」と答えた中山間地区住人は 49 名、「ない」と答えた住人は 16 名であった。

問 2(Fig. 5)の「問 1 で公共交通機関が「ある」と答えられた方について、「公共交通機関の便利はいいですか」の設問では、芦見 3 集落では約 80%が「便利が良い」と回答しているが、福井県中山間地域では約 60%割が「便利が悪い」と答えているため、芦見 3 集落は限界集落の中でも比較的便利の良いエリアであることがわかった。

芦見地区住人は、農作業用の軽トラックや自家用車の保有率も高い為、実際には公共交通機関の利用者は自家用車を利用しない高齢者がバスやタクシーを利用するか、高齢者の家族が送迎するなどして交通の便は担保されている。

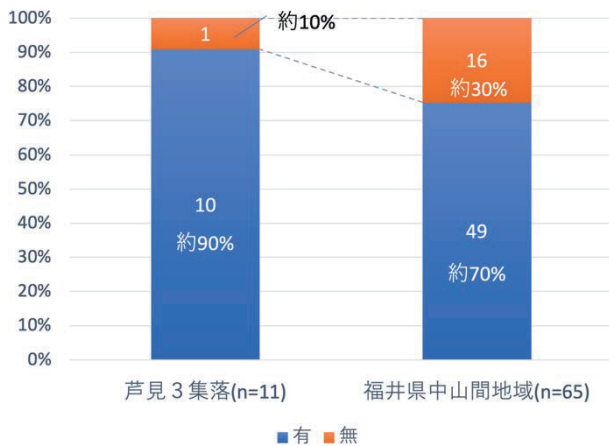


Fig. 4 集落から利用できる交通機関(問 1)

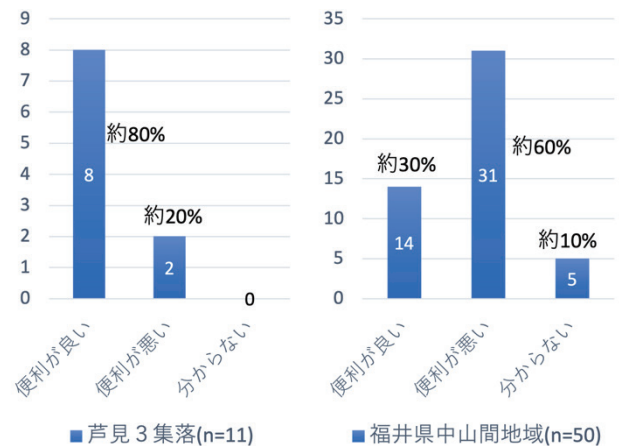


Fig. 5 交通機関の利便性について(問 2)

問 3(Fig. 6)の「集落には、集会所(コミュニティセンターや ふれあい会館など)がありますか」の設問に関しては、芦見 3 集落は「ある」が 10 世帯、「無い」が 1 世帯であったが、芦見地区住人によると、それぞれ芦見地区の集落には集会所が設置されているということで、「集会所に行くことのない世帯が知らない場合があるのではないか」とのことであった。

問 4(Fig. 7)の「集落には、空き家や廃校、空き店舗など、現在利用されていない建物がありますか」の設問では芦見 3 地区と中山間地域共に約 80%が「ある」と回答した。前述の『「集落点検」についての纏め』によれば、平成 24(2012)年当時、「皿谷で 3 軒、所谷で 2 軒、西中で 1 軒、箆谷で 1 軒の空き家がある」とされている。その後も限界集落 A43 の藤井氏と共に木の伐採時に事故で亡くなった箆谷町の宮本氏宅のように空き家となり、現在宮本氏の娘が宮本氏の家と畑を福井市内から週に数回維持管理に訪れているような事例もある。

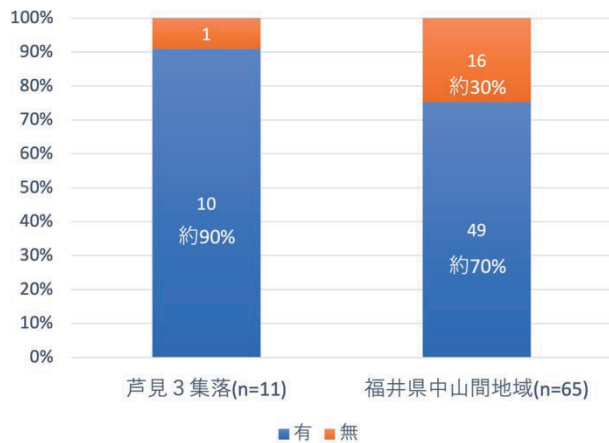


Fig. 6 集落のコミュニティについて(問 3)

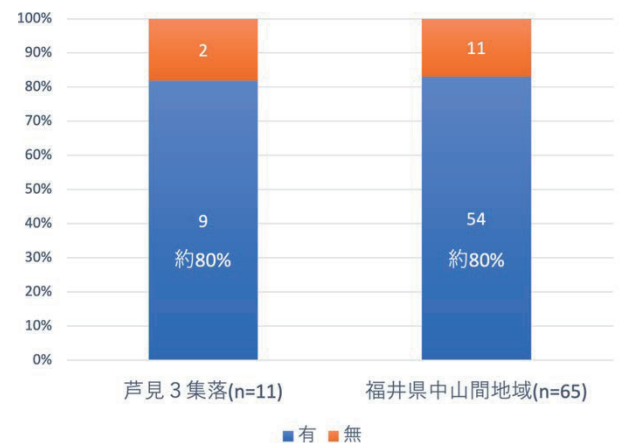


Fig. 7 集落の未利用施設について(問 4)

このように空き家があっても、親戚や近隣住民で維持管理を行っている。また、問 5(Fig. 8)の「集落には、お年寄り 1 人だけで住んでいる世帯(独居老人世帯)はありますか」の設問に対して 90%の芦見 3 集落の住民は独居老人の確認がされている。

問 6(Fig. 9)の「問 5 で、「ある」と答えられた方について、「お年寄り 1 人だけで住んでいる世帯の安否の確認は、おおよそ毎日できていますか」の設問では、芦見 3 集落では独居老人の安否確認が「できている」と回答した割合は約 55%、また「できていない」は約 10%、「わからない」が約 35%と多く、芦見地区住人に聞いたところによると、近隣住人で確認している為全ての住人についてはわからないのではないかと話であった。

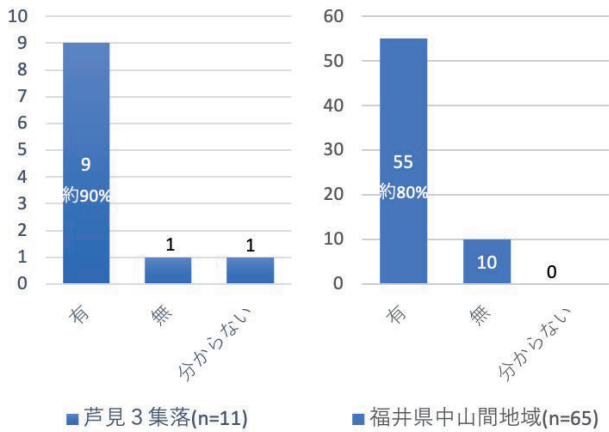


Fig. 8 独居老人世帯について(問 5)

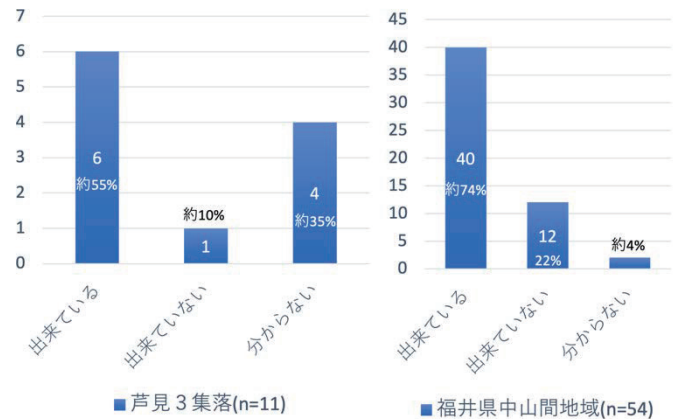


Fig. 9 独居老人世帯の安否確認について(問 6)

問 7 の「集落内のお年寄りの楽しみや生きがいは何ですか」の設問(Fig. 10)については、複数回答ではあるが、芦見 3 集落では半数以上の世帯が「野菜づくり等の農作業」と答えている。例えば芦炭窯のすぐ下にある下吉山町の杉森氏は 86 歳の老人ではあるが、荒天の日以外はほぼ毎日のように芦炭窯の下の畑で旬の野菜づくりをされている。福井県中山間地域の世帯では野菜づくり等の農作業と住民間のおしゃべりがほぼ同数の 40% 弱の割合で、芦見地区の世帯と比べて子どもや孫との触れ合いの割合が低かった。

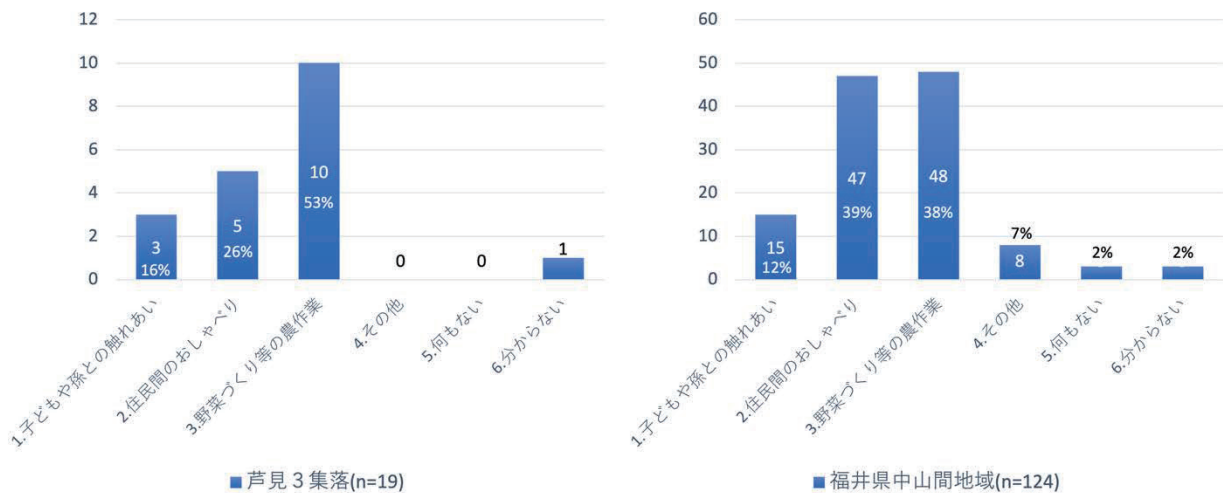


Fig. 10 集落のお年寄りの楽しみや生きがいに関するアンケート結果

問 16 の「農作物への鳥獣被害はありますか」については、前述の杉森氏の畑においても、「近隣に住む猿や猪が収穫時期になると野菜を持ち去る」と聞く。上吉山町の田中氏も一昨年に猪被害が多発したため、昨年度は畑周辺を囲う電流有刺鉄線を備えていた。

設問が前後するが、問 14(Fig. 11)の「都市部の住民が集落に数日間宿泊し、ボランティアで農作業や清掃作業などを手伝ったりすることについて、どう思いますか」の設問(Fig. 8)については 40% 弱が「歓迎する」と回答した。

「歓迎しない」の回答はなく、「どちらとも言えない」が 60% を超えた。福井県中山間地域の問 15「問 14 で「2. 歓迎しない」と答えられた方について、その理由はなんですか」の回答(Fig. 12)をみると、約 30% の世帯がそれぞれ「受け入れが大変」や「気を使う」と回答している。これは実際に受け入れ体制が整っていれば福井県の中山間地域の「歓迎しない」とした約 30% が、「どちらとも言えない」と回答した約半数の世帯でも、「歓迎する」に転換できる可能性があると考えられる。

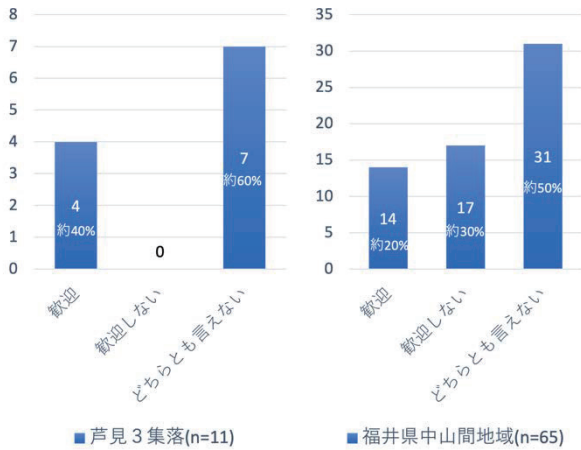


Fig. 11 都市部の住人がボランティアについて(問 14)

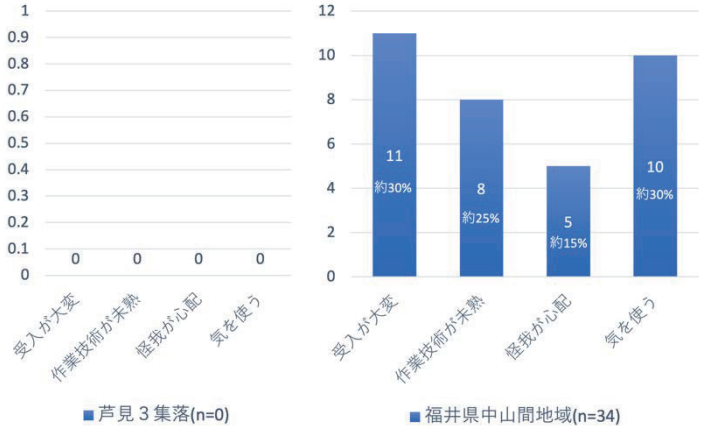


Fig. 12 歓迎しない理由について(問 15)

問 19 の「集落の行事等を中心となって進めたり、集落住民を引っ張っていくリーダー的な立場の人はいますか」の設問(Fig. 13)に関して、芦見 3 集落では半数を超える世帯が「いる」と回答した。福井県中山間地域の世帯でも同様に半数以上が「いる」と回答しており、この設問では芦見 3 集落世帯と福井県中山間地域ではほぼ同じ結果となった。前述の都市部の住人が集落に数日間宿泊し、ボランティアで農作業や清掃作業などを手伝うことについて「歓迎しない」と回答する人々を転換するためには、これら受入れ側集落のリーダー的存在の方々や外部の方々との間で、理解が進むことが不可欠であると考えている。

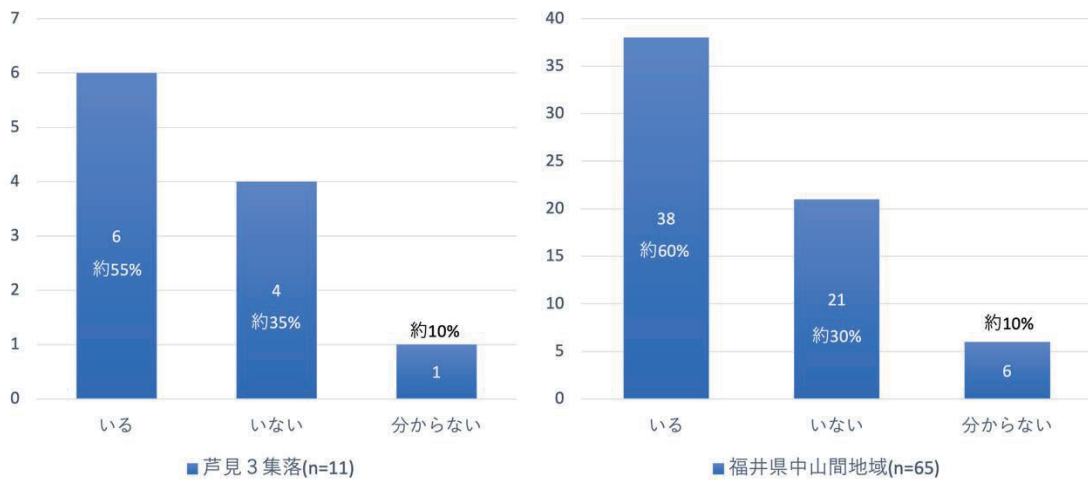


Fig. 13 集落のリーダーシップに関するアンケート結果(問 19)

問 21 の「集落の活性化のためには、何が必要だと考えますか」の設問(Fig. 14)については、複数回答であるが、芦見 3 集落世帯では、「お年寄りが楽しく集える場所」が最も多く約 45%を超え、次に「祭やイベントなど地域の魅力づくり」と「バスなど公共交通機関の整備」が同じく約 30%を占めている。福井県中山間地域では、「お年寄りが楽しく集える場所」と「バスなど公共交通機関の整備」が同数で 20%を超え、その次に「地域特産品など商品開発、就業の場の整備」が続いた。例えば福井県中山間地域の限界集落では、殿下地区などでは「かじかの里山殿下」など田舎のお袋の味を売りにしたバイキングランチを提供する店舗が賑わいを生んでいる。

芦見 3 集落は、居住地以外は田畑と林業が主であるが、既に高齢化のためリタイヤされた世帯が大半であるため、福井県中山間地域世帯が考える「地域特産品など商品開発、就業の場の整備」という面ではまだまだ施策が取られていないと言える。しかし、下吉山町や上吉山町、更に上流のリズムの森を超えて皿谷方面の芦見川や、JR 越美北線沿いの足羽川上流にあたる川沿いでは毎年 6 月中旬頃に鮎の友釣りが解禁される。この時期、初夏の訪れとともに美山の木々の緑が濃くなり空気が更に澄んでいるように感じられる最高の時期となるが、この鮎釣



りに限らず足羽川上流域の溪流釣りは県外ナンバーの車が国道沿いの路肩に止まり密かな釣りスポットとして知る人ぞ知るといふ場所である。福井市のキャンプ施設であるリズムの森はコロナ禍により客足が減り、同時に研究調査の拠点としている芦炭窯の炭の売り上げも昨年度は大幅に減った。芦炭窯では新商品の開発など進めているが、まだまだ収益事業としては成り立っていないのが現状ではある。このようにいくつかの地域活性化の手がかりとなる可能性を持つ案件は存在する。

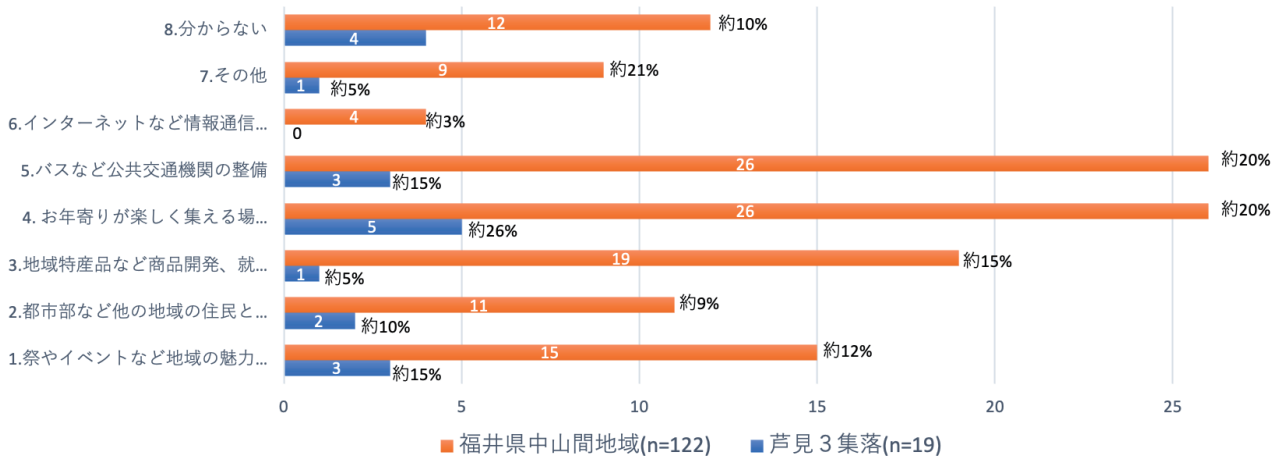


Fig. 14 集落の活性化についてアンケート結果(問 21)

問 23 「問 22 うち、特に困っているものについて、1つ◎をしてください」の結果では、芦見3集落世帯 (Fig. 15)、福井県中山間地域の世帯 (Fig. 16) とともに特に「鳥獣害・病虫害の発生」を筆頭に、「医療機関が近くにない」、「食料品などが買えるスーパーが近くにない」、しかしこれらの内容は、多くの限界集落に共通の内容であると考えられる。

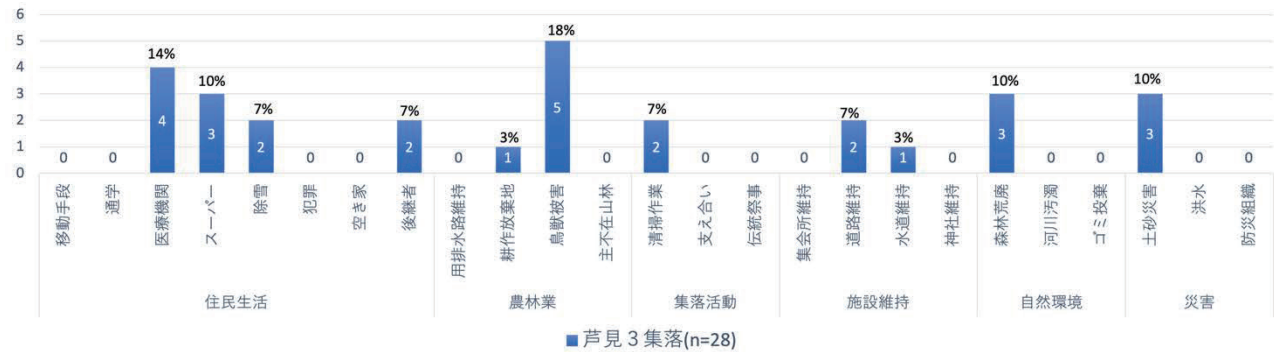


Fig. 15 集落で特に困っているものについてアンケート結果 芦見3集落世帯(問 23)

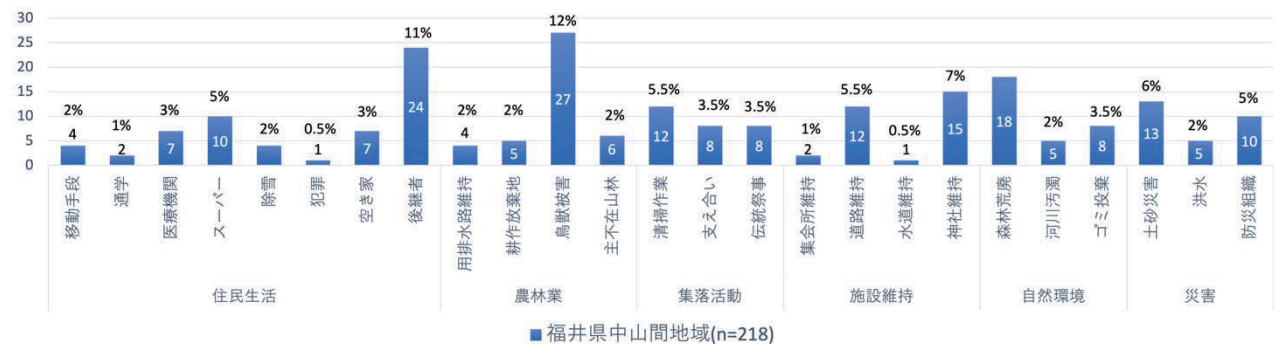


Fig. 16 集落で特に困っているものについてアンケート結果 福井県中山間地域(問 23)

## 6. 結論

福井県の集落实態調査により明らかにされた、集落の課題と今後の施策の方向性では、「集落の高齢化・人口減少により、集落の担い手や次代リーダーの不足が懸念され、集落の活性化や子世代が住み続けたいと思える魅力的な集落づくりを進めることが必要だ」と述べられている。この点は、芦見の3集落においても同様の結果であると言える。

一方で3年以上に渡る芦炭窯での活動を通して感じられることは、集落のお年寄りが高齢であってもいまだに健脚で、木の伐採ではスルスルと山肌を登り、力強く作業をされ、畑を耕す。また、外部からの来訪者に対して親切に手取り足取り自身の技術を教え伝えている現実もある。若い人材がこの集落のお年寄りから学び、SDGsの持続可能な開発目標（Fig. 17）に掲げられた「8. 働きがいも経済成長も」、「11. 住み続けられるまちづくりを」、「13. 気候変動に具体的な対策を」、「15. 陸の豊かさを守ろう」、「17. パートナーシップで目標を達成しよう」など芦見地区においてもそれぞれのゴールに向け、施策を地域の住人と共に考えていくことができるかもしれない。

地域住民にとっての集落の問題は、単に人口減少による人手不足だけでないことが日本全土同様、今回のアンケート結果と検証により明らかになった。今後住み続けたい集落であるために何が必要か、それはハード面による必要な支援策と「ヨソモノ」による地域への介入を如何に地域住民にとって違和感なくビジョンを共有できるかが重要という結果を得られた。

芦見地区独自の地域資源を活かしたヒト・モノ・コトを情報発信し、地域の魅力づくりを進めることで、福井の都市部や県外からのIターン・Uターンで、まずは「微住」から始まり、限界集落からの脱却を図っていく仕組みを地域の住民の方々とともに引き続き考えていきたいと考える。



Fig. 17 SDGsの持続可能な開発目標

まだまだ、道半ばではあるが、限界集落 A43 での活動を映像で撮り溜め、SDGs クリエイティブアワードでローカルアクション部門の大賞を受賞したことは、福井県の自然環境課「里山里海湖資源の活用促進」と定住交流課の「移住定住の促進」でも話題となっていると、福井県の政策デザインチームメンバーより伝え聞いており、芦見地区で芦炭窯も含め行っている活動（Fig. 18）を知ってもらうためには、あらゆる方面に向け表現していくことが大切であると感じている。特に映像により地域資源を活かした活動の記録を続けることで、小さい集落であっても Web メディアや SNS など活用しながら情報を発信し、地域性を保持し活性化できる日が来ることを信じ、今後も地域活動を通じた制作活動を続けていきたいと考えている。



Fig. 18 芦炭窯の炭焼きに使用するナラの木伐採風景

## 謝 辞

本論文をまとめるにあたり、研究活動の拠点をご提供いただいている限界集楽 A43 代表の藤井啓文氏、芦見地区の上吉山自治会へのアンケート実施においてご助言及び多大なご協力を賜りました田中善弘氏、安野久朋氏に心より感謝申し上げます。

また本論において資料として使用した『「集落点検」についての纏め』を取り纏められた福井市集落支援員芦見地区担当、大森紀之氏が 2021 年 3 月に永眠されました。芦見地区の長年に渡る見守り活動及び調査研究により本研究においても貴重な資料をご提供いただきましたことに心より感謝し、哀悼の意を表します。

## 注と参考文献

- (1) 観光庁, “「新たな旅のスタイル」ワーケーション&ブレイジャー”,  
<https://www.mlit.go.jp/kankochoworkation-bleisure/>, (2021 年 4 月 20 日)  
 ワーケーションを推進する動きは, SDGs の目標 8 にある「働きがいも経済成長も」に関連し, ワークライフバランスの質の向上を目指した I ターン・U ターンにより, 地方で働き, 心豊かな暮らしをもたらす「働き方改革」にもつながる.
- (2) 内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局資料, “「地方創生テレワーク推進に向けた検討会議「転職なき移住」による地方への人と知の流れの創出」”, <https://www5.cao.go.jp/keizai-shimon/kaigi/special/reform/wg6/20210423/pdf/shiryoku2-2.pdf>, (2021 年 4 月 20 日)  
 政府もこの動きを「東京一極集中の是正」にも関連付け, 予算を確保するなど後押ししている.
- (3) 松原かおり, “地域資源の再生を目指す活動の記録～限界集落 A43 の事例”, 福井工業大学修士論文, 2020
- (4) 松原かおり, 池田岳史, “「この場所に来れば, 誰かに会える。」～福井市芦見地区「限界集楽 A43」を題材とした映像による観光プロモーション”, 日本デザイン学会 デザイン学研究作品集(26), 2021, pp.36-39.
- (5) 福井県, “平成 29 年度福井県集落実態調査の結果について”,  
<https://www.pref.fukui.lg.jp/doc/sityousinkou/furusato/sixyurakujixutaitixyousa29.html>, (2021 年 4 月 20 日)  
 福井県の総世帯数は平成 29 年度(2017)284,100 世帯であり, 65 歳以上の高齢化率は平成 27 年度(2015)の全国の高齢化率 26.6%の 2 ポイント高い 28.6%である. 平成 29 年度はさらに 29.8%と引き続き上昇傾向にある.
- (6) 総務省, “過疎地域等における集落の状況に関する現況把握調査(最終報告)”,  
[https://www.soumu.go.jp/menu\\_news/s-news/01gyosei10\\_02000066.html](https://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01gyosei10_02000066.html), (2021 年 4 月 20 日)  
 総務省と国土交通省では, これまで平成 11(1999)年度, 平成 12(2000)年度, 平成 18(2006)年度, 平成 22(2010)年度及び平成 27(2015)年度に, 合同で過疎地域等における集落の現状把握調査を実施し, 令和元(2019)年度に最新のデータを取るため実施され, 調査対象は平成 31(2019)年 4 月 1 日時点の過疎法により過疎地域に指定された地域である.
- (7) 福井県, “福井県の推計人口”, <https://www.pref.fukui.lg.jp/doc/toukei-jouhou/zinnkou/jinkou.html>, (2021 年 7 月 10 日)  
 この推計人口および世帯数は, 「令和 2 年国勢調査(10 月 1 日現在)」の結果(速報値)を基礎とし, これに毎月, 市町から報告される住民基本台帳の増減数を加えて算出.
- (8) 国土交通省, “若者を取り巻く社会経済状況の変化”  
<https://www.mlit.go.jp/hakusyo/mlit/h24/hakusho/h25/html/n1111000.html>, (2021 年 4 月 20 日)  
 (単身・夫婦のみ世帯の増加と世帯の小規模化)  
 人口減少・少子高齢化が進展する中で, 世帯構成も変化している. 我が国の総人口が減少を始めた一方で, 一般世帯総数は, 1960 年の 2,216 万世帯から 2010 年の 5,184 万世帯まで継続的に増加している. 国立社会保障・人口問題研究所の推計によると, 我が国の一般世帯総数は今後 2019 年まで増加が続き, 5,307 万世帯でピークを迎えるが, その後は減少に転じ, 2035 年には 4,956 万世帯まで減少すると見込まれている.
- (9) 総務省, “集落点検チェックリストについて”, [https://www.soumu.go.jp/main\\_content/000679713.pdf](https://www.soumu.go.jp/main_content/000679713.pdf), (2021 年 4 月 20 日)  
 福井市集落支援員芦見地区担当の故・大森紀之氏による『「集落点検」についての纏め』は, 総務省が配布している「集落点検チェックリストについて」を基に, 芦見地区の 7 要素(1・源, 2・勢い, 3・つながり, 4・資源, 5・基盤, 6・自立性, 7・将来性)について芦見地区の現状について地区民の聞き取りや, 集落支援員の考えを記したものであり, 本研究遂行の拠点としている芦見地区にある炭焼小屋「芦炭窯」を運営している一般社団法人限界集楽 A43 の代表である藤井啓文氏が資料として保存されている. 本調査に際し, 上吉山町のお世話役で芦炭窯の炭造りもサポート頂いている田中氏や, 安野氏な

ど芦見地区住人が集落へアンケート実施の周知サポートや芦見地区の元集落支援員の大森氏についての情報など得る事が出来た。

- (10) 福井新聞, “高齢化で解散危機, 集落へ支援員”, <https://www.fukuishimbun.co.jp/articles/-/896255>, (2021 年 4 月 20 日)  
少数の高齢世帯で構成する福井県福井市内の自治会が昨冬相次いで解散したことを受け, 市は 7 月 16 日, 自治会運営を支援する「特定集落支援員」4 人を中山間地域の小規模 4 集落に配置し, 辞令を交付した。支援員が配置された集落は, 殿下地区の別畑町 (3 世帯 9 人), ニツ屋町 (6 世帯 11 人), 水谷町 (4 世帯 11 人) と, 美山地区の赤谷町 (3 世帯 5 人)。市内の自治会を巡っては昨冬, 美山地区と日新地区の 2 自治会が解散した。ともに少数の高齢世帯で構成し, 地区などから割り振られる役職を担いきれなくなったことが要因とみられる。
- (11) 服部 勇, “日本海地域の自然と環境”, 福井大学地域環境研究教育センター研究紀要, No.14, (2007), pp.99-115

(2021 年 9 月 13 日受理)